

令和7年度 学校関係者評価報告書

令和8年2月27日

学校関係者評価委員 7名

学校法人双葉学園 ふたば認定こども園横川目こども園

1. 本園の教育目標

①自分で考え行動し、最後までやり抜く子 ②優しく思いやりのある子 ③伸び伸びと自分を表現できる子

2. 本年度重点的に取り組んだ目標・計画

- ・構築してきた子ども達の遊びの充実のため、従来の行事や仕事の精査、見直しを行う
- ・行事だけの発信にとどまらず、食育、衛生、安全の発信方法も模索する
- ・当園の良さは大事に、課題は相互に改善していくよう、教職員の所属意識が高まるようにする

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの遊びの充実	B	個々の職員が子ども理解に努め、興味関心から遊びを広げるよう関わっていたのは評価に値する。一方、子どもの遊びの継続や発展に対しては、それぞれの職員が課題と感じたり、反省したりしている様子があった。
2	職員間の連携、所属意識	A	連絡帳のICT化を図ったことで、職員間の情報共有や密になり、クラスを越えて子どもの様子、遊びの理解が一段と深まった。また、仕事の効率化にもつながった。
3	食育の充実	A	例年通り、食を通じて子どもと保育者と調理者が楽しみながら取り組んできた。保護者にも食育にかかわる取り組みを評価されている。
4	保護者支援	B	連絡帳のICT化、紙媒体の削減により、賛否両論があった。
5	安全・保健衛生	A	嘔吐処理の再確認の時間を設けることで、どの職員でも対応できる体制を図った。また、熊対応に関わる避難訓練も行い、安全管理に努めた。

評価 (A・・・成果があった B・・・概ね成果があった C・・・成果があったが不十分 D・・・成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	教育・保育内容については、子どもの遊びの大切さを個々の職員がしっかり理解しながら取り組むことができ、保護者にもその事が伝わっているとの評価があった。反面、職員一人一人の能力、もっと良い保育をしたいとの気持ちから、職員から課題も多く上がっていることに対しては、質が向上してきた証と捉えて良いのではないかと話があった。また、ICT化については、スタートの年ということで、賛否を踏まえながら進めていくことで良いのではないかと意見であった。安全については、現状を踏まえた対応を評価された。

評価 (A・・・成果があった B・・・概ね成果があった C・・・成果があったが不十分 D・・・成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 遊びの充実	子どもの興味関心を広げながら、充実した遊びを今後も展開していけるよう、園内研修や毎週の遊びの反省の中で、保育教諭間で共有しながら進めていけるよう取り組む。
2 保育教諭の質向上	保育教諭自身が成長を感じられるように、自分達の保育や研究したことを学会で発表し、フィードバックを得ながら自分を振り返られるような機会を設ける。
3 情報発信方法の模索	個別に子どもの情報を保護者と共有する方法と、子どもの活動を全体で共有する方法と、区別しながら進めていく。日頃の子どもの様子が個別の連絡帳ではなくとも保護者に伝えられるような工夫をする。

6. 学校関係者評価委員の評価

遊びの大切さが保護者にも浸透しており、日頃の保育に対しての信頼が厚くなっている事は評価に値する。ICT化に関しての賛否はあるものの、保育教諭の業務改善を進めていく事で、保育教諭自身が仕事の楽しさを感じながら子どもと関われることは、子どもにも良い影響があるのは間違いない。保護者の満足度とのバランスを図りながら今後も検討していく事を望む。

前年度の反省を生かしながら園運営している事がわかる。今後も、一つ一つ改善していき、園児数へも良い影響があることを期待する。